

事業名 独立行政法人国際協力機構有償資金協力部門への 出資

評価結果

事業内容の一部改善

（事業内容の一部改善 3名／現状通り 3名）

評価者のコメント

- 国内外の経済・金融情勢の変化に合わせ、現状、財務の健全性は維持できていると評価できる。今後、市場金利が上昇局面に入った場合も想定し、財投貸付金金利と円借款金利との逆ざや幅の拡大に備え、財務の健全性を維持できるように検討しておくべきである。
- 一般会計出資金が金利逆ざや部分の手当であるならば、今後、出資金が増えてくることも予想される。
- 日本の国際的なプレゼンスを高めるためにも、JICAの国際協力事業に出資を行うことは、非常に有意義であると認められる。また、JICAのHPで確認しても、ガバナンス・透明性向上に努めていることが理解できる。
- JICAの有償資金協力事業についての情報開示を含めガバナンス機能の強化を促し、財務省としてのモニタリング機能を高めたい。
- JICAの中長期的な財務健全性は維持されている。政策的ニーズに沿った借款がなされているかの評価の1つとなる外部評価は、その中立公正性の確保がなされているかについて、投資家としての財務省は一層モニターすべきものとする。
- 国際機関との連携は図れている。
- リスク管理の基本方針に基づき、JICAの財務状況の健全性についての出資金の位置づけを含め、よりわかりやすい説明の開示が必要ではないか。

- 足許では、新型コロナ危機対応緊急支援円借款の金額が大きく増えていることもあり、G20でも債務支払猶予イニシアティブが議論されるなど、国際協調が一段と重要になっていると考えられる。わが国としても、引き続き、この分野で積極的に貢献していくことが求められる。
- 長期に渡った施策が国際社会において一定の評価を得ていると考える。引き続き、この積み上げた信頼を失うことなく、規模を維持しつつ、事業支援を継続してほしい。特に地政学・地経学的視点から重要性は増していると考ええる。
- 貴重な財源を使つての出資であるため、すでに実施している外部を活用した事業評価などの仕組みを含めて、正しい評価を得るための努力も必要と考える。
- SDGs／ESG的なメッセージも追加した情報発信などで、国内外での理解促進に努めてほしい。
- 継続的に財務省からの出資に対する効果の最大化を図るため、発展的に協力事業を見極め、さらなる効率性を高めてほしい。
- 中長期的な財務健全性を維持するために、資金調達手段の多様化としてJICA債などのより積極的な販売（国別、プロジェクト別）といった自助努力が必要ではないか。
- 大事なのは国民の理解と支持なので、国民向けのアピールとともに、JICAの自身の資金調達のアイデアが必要になってくる。

とりまとめコメント

最近の国際情勢等を踏まえ、JICAと国際機関との連携強化に努めるとともに、有償資金協力事業を戦略的かつ効率的に活用すること。

途上国の経済・財政状況の悪化等を踏まえ、JICAの財務の健全性が維持されるよう、融資等に係るリスク管理を強化すること。

事業成果や財務状況等についての情報開示を強化するなど、有償資金協力事業の透明性の確保に一層努めること。